

比奈1古墳群 石切平第2号墳 1,300年ぶりに石室あらわる

原田地区の新規発見古墳

富士市原田に所在する石切平第二号墳では、今年一月から始まった富士市による発掘調査が大詰めを迎えている。本古墳は市の公共事業計画に先立ち、令和四年九月に実施した確認調査により発見された、市内では七四六番目の古墳である。今回の調査で、飛鳥時代(七世紀)に築かれた古墳の埋葬施設の形状や規模、副葬品の内容などが明らかになった。古墳の埋葬施設は、平面プランが長方形となる無袖形の横穴式石室であり、石室の全長は約五・五m、最大幅は約一・四mを測る。壁の石には周辺で産出する富士山の溶岩が使われる。床面には駿河東部地域に特徴的な仕切石や段構造が設けられた石室内が区画されていた。



石切平第2号墳の横穴式石室



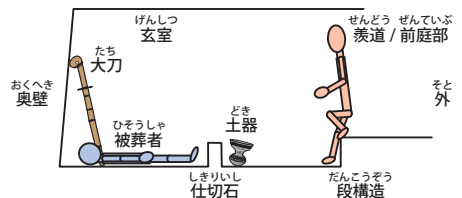
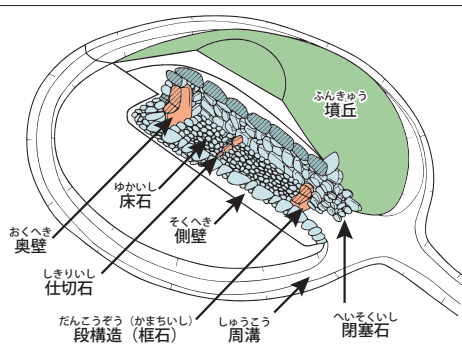
仕切石よりも奥側は、河原石による石敷がみられるほか、耳飾りなどが出土しており、主たる埋葬空間として使用されたことがうかがえる。



河原石を用いた床面の石敷



大刀の調査風景



横穴式石室を有する円墳の模式図



石室内から出土した須恵器と鉄鏃



石室入口部の段構造と閉塞石



奥壁隅の大刀と床面に落ちた刀装具

埋蔵文化財ニュース

2024年(令和6年)
2月23日(第12号)
富士市教育委員会
文化財課
富士市埋蔵文化財調査室

奥壁の隅に
立てかけられた大刀

副葬品が良好に残ったことも、本古墳の大きな特徴である。石室内からは大刀や鉄鏃(矢尻)、金銅製の耳飾り、須恵器などが見つかった。特に立てかけられた状態の大刀は極めて珍しく、石室内が千三百年以上荒らされなかったことを示している。